

だい かいかながわけんしょうがいしゃじりつしえんきょうぎかい きょうぎかいしゅうりょうご いいん いけん けん かんが かた  
第39回神奈川県障害者自立支援協議会 協議会終了後の委員意見と県の考え方について

ぎだい かながわけんしょうがいしゃじりつしえんきょうぎかい かいちょう ふくかいちょう せんにな しりょう  
議題1 神奈川県障害者自立支援協議会の会長・副会長の選任について（資料1）

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
	ついかいけん な 追加意見無し	

ぎだい かくけんいききょうぎかいとう けんきょうつうかだいかいけつ む とりくみじょうきょうおよ こんご とりくみ しりょう  
議題2 各圏域協議会等の県共通課題解決に向けた取組状況及び今後の取組について（資料9）

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
こいずみ とも 小泉（智） 委員	<p>かわさきしけんいき いけん ・「川崎市圏域」についての意見</p> <p>かだいかいけつ む くきょうぎかい れんけい とりくみ し く 課題解決に向けて、区協議会と連携した取組の仕組みが</p> <p>よ おも とく かわさきく しみん じょうほう 良いと思いました。特に、川崎区の「市民がGHの情報を</p> <p>し 知ることができるようになるワーキング」などで出た</p> <p>ぐたいてき くふう こんご けん 具体的なアイデアや工夫などがあれば、今後の県</p> <p>きょうぎかいなど きょうゆう うれ 協議会等で共有していただけたら嬉しいです。</p>	<p>いけん ふ こんご きょうぎかい ないよう ・いただいたご意見を踏まえ、今後の協議会の内容について、</p> <p>けんとう 検討してまいります。</p>
こやまいいん 小山委員	<p>た いけん ・その他の意見</p> <p>おな ぎだい ちてき せいしん からだ かくだんたい いつも同じような議題なので、知的・精神・身体各団体</p> <p>あつ げんざい ちいき す ひと いけん き を集め、現在、地域に住んでいる人たちからの意見を聞く</p> <p>けんしゅう い 研修を行ったらどうか。</p>	<p>いけん ふ こんご せさく さんこう ・いただいたご意見を踏まえ、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

ぎだい 議 題 3 そうだんしえんじぎょうしょ かくじゅう うんえいあんてい む とりくみ しりょう  
相 談 支 援 事 業 所 の 拡 充 ・ 運 営 安 定 に 向 け た 取 組 に つ い て （ 資 料 10 ）

委員名 いいんめい	委員からの御意見 いいん ごいけん	県の考え方（回答） けん かんが かた かいとう
こやまいいん 小山委員	<p>・「開設促進セミナー」（資料5）のあり方についての意見          そうだんしえんじぎょうしょ げんば み そうだんしえんじぎょうしょ ひと          相談支援事業所の現場を見せるので、相談支援事業所の人          が講師となって、大変なところなど、話をしてもらったら          どうか。</p> <p>・その他の意見          （セミナーを）開催して、相談支援事業所を作ってつぶし          て、そのお金は無駄だと思った。</p>	<p>・いただいたご意見を踏まえ、今後のセミナーの内容につ          いて、検討してまいります。</p>
こいずみ とも 小泉（智） いいん 委員	<p>・その他の意見          かさん しゅとくそくしんい がい きぞん じぎょうないよう いったいか          加算の取得促進以外にも、既存の事業内容と一体化しなが          ら行えるような委託事業を県や市で創出することを検討          しても良いと思いました。</p> <p>また、サービス管理責任者と相談支援専門員は両方取得し          更新を続けることはかなり負担が大きいと聞きます。学ぶ          べき内容は異なる部分もあるかと思いますが、経験ある          人材が法人内で配置変更などにより相談支援事業に携わ          れるよう、資格保持の制度があってもよいのかと思いまし          た。</p>	<p>・いただいたご意見を踏まえ、今後の施策の参考にさせて          いただきます。</p>
な ら いいん 奈良委員	<p>・「開設促進セミナー」（資料5）のあり方についての意見          しりょう ① およ とりくみ じっし ② さんせい          資料10の①及び②の取組実施については賛成する。</p> <p>ただ、セミナーの実施とは別に、廃止事業所の主な要因に          記載のある報酬、人材不足、職員の負担の問題については          検討していく必要があると考える。</p>	<p>・いただいたご意見を踏まえ、今後の施策やセミナーの          開催方法について、参考にさせていただきます。</p>

委員名	委員からの御意見	県の考え方（回答）
	<p>・その他の意見</p> <p>相模原市では相談支援専門員向けにオープンデスクを開催しているが、相談支援専門員は単独の職場が多く、日中は相談支援業務に追われ、研修等に参加することが困難という意見があった。既存事業所向けのセミナーを開催するにあたっては、開催時間や開催方法などを受講者が受講しやすいように設定する必要があると考える。</p>	<p>・いただいたご意見を踏まえ、今後の施策やセミナーの開催方法について、参考にさせていただきます。</p>

報告事項 1 国調査「令和6年度相談支援事業の実施状況」について（資料2）

委員名	委員からの御意見	県の考え方（回答）
小泉（智） 委員	<p>前年度比でセルフプラン率が大きく変動している市町について、相談支援専門員の実人数に大きな増減があること以外の理由があれば、教えていただきたいです。</p>	<p>前年度比でセルフプラン率が大きく変動している市町の特徴を確認しますと、まず、セルフプラン率が減っている市町は相談支援専門員の「専従者」が増えていることが挙げられます。逆に上がっている市町については、これまで計画を作成する役割も担ってきた地域の中核的な相談に応じる事業所やセンターについて、その中核機能を果たすために計画作成の役割を担わなくなったという状況等が確認できています。引き続き、因果関係については把握に努めて参りたいと思います。</p>

ほうこくじこう けんしゅうきかくぶかい かいさいじょうきょう しりょう  
**報告事項 2 研修企画部会の開催状況について（資料 3・4・5・6）**

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
	ついかいけん な 追加意見無し	

ほうこくじこう けんりようごぶかい かいさいじょうきょう しりょう  
**報告事項 3 権利擁護部会の開催状況について（資料 7）**

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
こやまいいん 小山委員	ぎやくたい ぶりようほうりつそうだん ところ 虐待なくならない。無料法律相談ができる所をふやしてほ しい。本人が虐待と気づかない人もいる。 かいしゃ おや つぎ はたらところ がまん 会社について、親が次に働く所ないから我慢しなさい。	いけん ふ こんご しょうがいしゃぎやくたいせ さく けんとう いただいたご意見を踏まえ、今後の障害者虐待施策を検討 する際の参考にさせていただきます。

ほうこくじこう こうじのうきのうしょうがいしえんようせいけんしゅう かいさいじょうきょう しりょう  
**報告事項 4 高次脳機能障害支援養成研修の開催状況について（資料 8）**

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
	ついかいけん な 追加意見無し	

ほうこくじこう ちいきふくしかさいがいふくし しんせつ しりょう  
**報告事項5 地域福祉課災害福祉グループの新設について（資料11）**

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
こやまいいん 小山委員	さいがい とき ひなんじょうとう う い ばしょ ち ず つく 災害の時、避難所等の受け入れる場所の地図を作ってほしい。	かくしちょうそん ひなんじょ ち ず など 各市町村において、避難所の地図や、ハザードマップ等を さくせい じゅうみん かた はいふなど たと 作成しており、住民の方にも配布等しています。例えば、 よこすかし さいがい ちく さいがい 横須賀市では災害リスクマップとして、地区ごとの災害リス クや避難所等をまとめたマップを作成しています。必要とす る方に情報がきちんと届くよう、県としても当事者団体等 のいけん うかが しちょうそん じょうほうきょうゆう のご意見を伺いながら、市町村にも情報共有をしまい ります。
ならいいん 奈良委員	さがみはらし れいわ ねんど さいがいじしやうがいしやしえんぶつびん 相模原市では令和6年度に災害時障害者支援物品として、コ ミュニケーション支援ボード、エマージェンシーエアケーン および手話通訳者・要約筆記者用ビブスの備蓄、また災害時に み つ 身に着けることで、周囲に障がいがあることを知らせ、避難 こうどう さい しえん う さいがいじしやうがいしや 行動などの際に支援を受けやすくするための災害時障害者 などしえん はいふ びちく じっし 等支援バンダナの配布、備蓄を実施した。 けんない さいがいたいおうじょうきょうとう きょうゆう 県内の災害対応状況等についての共有もしていただける とありがたい。	けん れいわ ねんど さいがいよう 県では、令和6年度に災害用コミュニケーションボードを さくせい けんないしちょうそん しやかいふくしきょうぎかい つう しやかいふくし 作成し、県内市町村や社会福祉協議会を通じて、社会福祉 ほうじんとう はいふ こんねんど ふくしひなんじょしきざい 法人等に配布しました。また、今年度は福祉避難所資機材 せいびしえんじぎょう はっさいじ ふそく そうてい 整備支援事業として、発災時に不足することが想定される、 くるま つえ ほこうき びちく い 車いす、杖、歩行器の備蓄を行っています。 しちょうそんふくしひなんじょうたんとうしやかいぎ かくしちょうそん また、市町村福祉避難所等担当者会議において、各市町村の とりくみじょうきょうとう きょうゆう 取組状況等を共有してまいります。
せきのいいん 関野委員	しんせつ ぎょうむ さいがいじ ようはいりよしやしえん 新設のグループの業務については、災害時の要配慮者支援 のとりくみ すいしん へいじ くんれん こべつひなんけいかく とりくみ の取組を推進するため、平時から訓練や個別避難計画の取組 しえんとう じゅうよう かんが だい き ぼさいがいじ 支援等、重要なことと考えます。大規模災害時における DWAT のかつどうとう ほけんふくし きょうりよく たいおう おも 活動等、保健福祉が協力して対応できればと思います。 こんかいがいぎない とうじしやみな がつまつ じしん 今回会議内では、当事者皆さんから7月末のロシアの地震か つなみけいほう はつびょうとう こんらん たい じょうほう ら津波警報の発表等での混乱に対し、情報へのアクセス	さいがいふくし ほけん いりよう ふくし れんけいきょうか と 災害福祉グループでは、保健・医療・福祉の連携強化に取り く こんねんど ふくし 組んでおり、今年度のビッグレスキューかながわでは、福祉 しせつ かつどうくんれん よてい ほけん 施設におけるDMAT活動訓練も予定しています。保健・ いりよう ふくし れんけい さいがいたいおう たいせい こうちく め ざ 医療・福祉が連携して災害対応できる体制の構築を目指しま すので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。 ほんきょうぎかい とうじしや かた こえ き さいがい また、本協議会をはじめ、当事者の方の声を聴きながら、災害 ふくししえん とりくみ すず 福祉支援の取組を進めてまいります。

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
	ほうほう きたくこんなんしゃ たいおう かだい きちよう いけん き 方法や帰宅困難者への対応が課題という貴重なご意見が聞 かれたとおもいました。	

ほうこくじこう しょうがい か ほうこく しりよう  
報告事項6 障害サービス課からの報告について（資料12-1～5）

いいんめい 委員名	いいん ごいけん 委員からの御意見	けん かんが かた かいとう 県の考え方（回答）
こやまいいん 小山委員	<p>しゅうろうせんたくし えんじぎょう じようきよう いけん しりよう ・「就労選択支援事業の状況について」の意見（資料12-1）</p> <p>あたらし こと を やる の は いい が、人 が いる の か。かた より に なる の で は 無理 や り 作っ て も 運営 で き る の か。</p> <p>こんご けんりつしょうがいしゃし えんし せつ かた いけん ・「今後の県立障害者支援施設のあり方について」の意見 (資料12-2)</p> <p>だいさんしゃ はい ぎゃくたい お はじ い ぬ う 第三者が入れない。虐待 が 起きて 初めて 入れる。抜き打ち で いろい ろ な 人 た ち を 入 れ る べ き で は な い か。</p>	<p>いけん ふ こんご じんざいいくせい さんこう ・いただいたご意見を踏まえ、今後の人材育成の参考にさせて いただきます。</p> <p>いけん ふ こんご けんりつしょうがいしゃし えんし せつ うんえいしどう とう さんこう ・いただいたご意見を踏まえ、今後の県立障害者 支援施設の 運営指導等の参考にさせていただきます。</p>
こいずみ とも 小泉(智) いいん 委員	<p>しゅうろうせんたくし えんじぎょう じようきよう いけん しりよう ・「就労選択支援事業の状況について」の意見（資料12-1）</p> <p>りよう しょう どうじしゃ きぞん しゅうろういこう ちが 利用する 障がい当事者が、既存の就労移行との違いな ど、混乱や勘違いなどがないように、パンフレットのわかり やすい版などあれば良いと思います。</p> <p>なかい えんもとりようしゃ しぼうじあん かかわ けんしょう ・「中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム 報告書」を受けて」についての意見（資料12-5）</p> <p>とうじしゃ かぞく こりつかん けいげん せんもんしよく 当事者や家族の孤立感を軽減するには、専門職による チーム連携や受け入れの場の整備も重要だと思いますが、 同時に地域のインフォーマルな居場所や相談場所なども</p>	<p>いけん ふ こんご せさく さんこう ・いただいたご意見を踏まえ、今後の施策の参考にさせてい ただきます。</p> <p>いけん しょうかんか きょうゆう けんとう ・いただいたご意見については所管課と共有し、検討してま いります。</p>

委員名	委員からの御意見	県の考え方（回答）
	<p>充実<sup>じゅうじつ</sup>してく必要<sup>ひつよう</sup>があると思<sup>おも</sup>います。セルフヘルプグループ  等<sup>な</sup>の立ち上げ<sup>たあ</sup>や運営<sup>うんえい</sup>支援<sup>しえん</sup>、団体<sup>だんたい</sup>周知<sup>しゅうち</sup>など、県<sup>けん</sup>や市町村<sup>しちょうそん</sup>でバックアップ<sup>よ</sup>があると良<sup>おも</sup>いと思<sup>おも</sup>います。</p> <p>また、地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>を得<sup>え</sup>るため<sup>に</sup>に住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>や一<sup>い</sup>般<sup>ぱん</sup>企<sup>き</sup>業<sup>ぎやう</sup>向<sup>む</sup>けの障<sup>しょう</sup>  が理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>促<sup>そく</sup>進<sup>しん</sup>に向<sup>む</sup>けた、交<sup>こう</sup>流<sup>りゅう</sup>の場<sup>ば</sup>や研<sup>けん</sup>修<sup>しゅう</sup>など<sup>を</sup>を推<sup>すい</sup>進<sup>しん</sup>してほ  しいと思<sup>おも</sup>います。</p>	
奈良委員	<p>・「<u>今後の県立障害者支援施設のあり方について</u>」の意見<sup>いけん</sup>  （資料12-2）</p> <p>さがみ緑風園<sup>りょくふうえん</sup>は最<sup>さい</sup>重<sup>じゅう</sup>度<sup>ど</sup>の身<sup>しん</sup>体<sup>たい</sup>障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しや</sup>用<sup>よう</sup>の施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>とし<sup>て</sup>、ニ  ズ<sup>かんが</sup>はあ<sup>いじょう</sup>と考<sup>けんとう</sup>え<sup>げんざい</sup>てい<sup>る</sup>。委<sup>てい</sup>譲<sup>いんすう</sup>を<sup>かくほ</sup>検<sup>かく</sup>討<sup>ほ</sup>するに<sup>てい</sup>あ<sup>いん</sup>た<sup>すう</sup>っ<sup>て</sup>は、現<sup>けん</sup>在<sup>とう</sup>  の定<sup>てい</sup>員<sup>いん</sup>数<sup>すう</sup>を<sup>ふく</sup>確<sup>けん</sup>保<sup>とう</sup>して<sup>ふく</sup>いた<sup>けん</sup>だ<sup>とう</sup>き<sup>たい</sup>たい。</p>	<p>・さがみ緑風園<sup>りょくふうえん</sup>では、これまで療<sup>りょう</sup>養<sup>よう</sup>型<sup>がた</sup>病<sup>びやう</sup>院<sup>いん</sup>や高<sup>こう</sup>齢<sup>れい</sup>施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>等<sup>とう</sup>へ  の移<sup>い</sup>行<sup>こう</sup>を<sup>すす</sup>進<sup>げんざい</sup>め、現<sup>てい</sup>在<sup>いん</sup>の定<sup>めい</sup>員<sup>めい</sup>は40名<sup>と</sup>とな<sup>っ</sup>てい<sup>ま</sup>す。</p> <p>今<sup>こん</sup>後<sup>ご</sup>、民<sup>みん</sup>間<sup>かん</sup>移<sup>い</sup>譲<sup>じやう</sup>に<sup>あ</sup>た<sup>ち</sup>っ<sup>き</sup>ては、地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>のニ<sup>えん</sup>ーズ<sup>ちいき</sup>や園<sup>えん</sup>の地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>での  役<sup>やく</sup>割<sup>わり</sup>など<sup>を</sup>を踏<sup>ふ</sup>ま<sup>てい</sup>え、定<sup>てい</sup>員<sup>いん</sup>数<sup>すう</sup>も<sup>ふく</sup>含<sup>けん</sup>め、検<sup>けん</sup>討<sup>とう</sup>して<sup>ふく</sup>まい<sup>り</sup>ま<sup>す</sup>。</p>